

小学校英語 お悩み相談室

第3回

いよいよ移行期間となった、小学校での英語教育。
初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、
英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

歌やチャンツ^(※1)で
高学年の子どものノリが悪いのですが、
どうすればいいでしょうか。

A 高学年なら自然なこと チャレンジ要素を入れよう

5, 6年生にもなると、意味や目的が分からないまま、英語を呪文のように唱えることに自然と抵抗を覚えるようになります。いわゆる思春期に入ってくるので、ノリが悪く見えるのは、自然なことかもしれません。低学年の子どもは先生のまねをして歌やチャンツに夢中で取り組みますが、高学年になると、物事を論理的にとらえる能力が発達し、「何を言っているのか知りたい」という気持ちが先行するようになります。

では、どうしたらノってくれるか。そのためには、**歌やチャンツの中に、子どもたちがチャレンジしたくなるような要素を盛り込みたいですね。**決まりきった内容ではなく、自分の思いを英語で表現してみる場面を作ることが重要です。教材どおりではなく、少しレベルを上げてみてもいいかもしれません。

例えば、「We Can! ①」では、「What would

you like?»と食べたいものを問い、「I'd like ~.」と答えるチャンツを紹介しています。表現の型を練習するチャンツなのですが、子どもがほんとうに好きな食べものを、「I'd like beef steak, ramen, fried chicken and spaghetti!」のように、早口にいくつでも言ってよいことにしてはどうでしょう。既成の音源に合わせてもよし、学級担任のタンバリンでもよいので、リズムに乗ることを条件にして子どもに工夫させます。

また、歌の場合、子どもたちが本当に興味をもちそうな歌を選ぶ努力も必要でしょう。ときには洋楽のラブソングなどを聴かせてみる。「この歌詞はこういう意味なんだよ」と説明したときに、子どもたちは少し背伸びしたような気分になれますよね。

彼らが興味を引かれる歌の中に、さりげない学びがあればいいと思います。音楽の先生と協力するなどして、高学年の子どもが好む歌を探してみてください。英語の歌は楽しいと思えるように工夫したいですね。

※1 英語の単語や文をリズムに乗って発音すること。

小泉 仁 こいずみ まさし
東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。
日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。
一般財団法人語学教育研究所理事。
中学校英語教科書
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の
編集委員を務める。

どんなお悩みにも
お答えします



QUESTION.2

自分の英語力に自信がないので、
子どもの英語力を評価できる
自信がありません。

A 正確性だけではない 多様な「ものさし」持って

学習指導要領を見る限り、小学校英語では正確性をあまり重視していません。英語で話す際、発音やアクセントの正確さを求めるというレベルまでは要求されていないのです。とにかく、聞かれたことが理解できて、返事ができればそれでいい、というのが今の小学校英語で求められていることです。

例えば、自己紹介の練習で、子どもが「I like dog.」と言ったり書いたりしたとします。書く活動であれば、適切な表現は「I like dogs.」ですが、伝えたい意味が理解できるなら、それは二重丸です。学習指導要領にある「語順を意識しながら書き移すこと」が認められれば、正確性はそこまで追求する必要はありません。なので、必ずしも先生の英語力がなければ評価できないということではないのです。

とはいえ、これまでの中学校英語では正確性をとても大事にしてきました。先生方にとっ

て、新たに教科化する小学校英語は、今まで経験してこなかった新しい評価をしなくてはいけないので、難しいところだと思います。

小学校英語における評価のものさしは、正確性という1本だけではありません。先生たちは、それぞれの課題やテストで、子どもたちの「何を」測りたいのか、多様な観点から考える必要があります。「今日は相手に思いが伝わったかどうかを確認します」とか、「今日は先生が感激した発表にボーナス点をあげます」とか。特に小学校の段階では、**文法や綴りのミスで減点するのではなく、コミュニケーションを取ろうとする姿勢を見て、加点的な評価をすべきでしょう。**

子どもが自分の言いたいことが英語だけでは伝わらなくて、絵を描いて相手に説明したとします。それはコミュニケーションを続けようとする意志の表れですよ。小学校英語では、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」ことが大切なので、それはプラスの評価の対象になるわけです。